

大規模校と小規模校の某教師の会話

～学校存続問題について～

長瀬小学校 辻野雅香

T (小規模校の教師):「最近、『特色を出しなさい。』と、お上の方からも、保護者の方々からも言われ、些か困惑しています……。」

K (大規模校の教師):「なんで？少人数の学校であるということで、今のままで十分特色があると思うよ！」

T:「ありがとう。そう思うでしょう？でもね、4年後に10名を切るという、児童数激減が予想される学校としては、特認校制度だけでは、なかなか転・入学児童が増えない現状があり、交通アクセスのデメリットを補ってあまりある魅力とは、特色のある学校、とりわけ『高い学力の保証こそが有効だ。』という考え方が強まって来ているんですよ。」

K:「確かに、有名私立小学校の“お受験”競争の激化を、マスコミなどで見聞きすれば、あながちその考えも首肯(うなずくこと)できなくはないが、本来、君の学校が持っていたはずの、ゆとりや、ゆったりとした時間の流れ、行き届いたきめ細やかな教育などといった、素晴らしい特色を損なってしまっただけでは、元も子もないのではなからうか？」

T:「おっしゃる通り！まさに、本末転倒。花を咲かせすぎて、幹や根まで枯らせてしまっただけでは、特色化にはならないと思うのですが……。でも、この地で暮らす人々にとって、この地の良さは、まるで空気みたいなもので、あって当たり前というか、特に特色があるとは感じにくいのでしょうか。『自然や、小規模というだけでは、平凡すぎて誰も魅力を感じない。従って、不便なところまで子どもを送り迎えまでして、転・入学させる人は、なかなかいないだろう。』という意見が出てくるわけです。」

K:「うーん、難しいねえ！」

(以下次号につづく)

大規模校と小規模校の某教師の会話

～ 学校存続問題について～

長瀬小学校 辻野雅香

T:「そこで、最近考えているのは、今までやれることはとことんやったとは思いますが、この市内からの転・入学児童は、送迎バスもない遠距離通学という高いハードルの為、現状では、生まれにくいのなら、もっとターゲットを広げて、市外（県外）や、場合によっては近畿圏、全国、海外にまでPRを試みてはどうか、ということなんです。」

K:「そりゃまた、かなり壮大！でもその方法は？」

T:「過去の、成功している特認校の資料からわかったのは、マスコミ、とりわけテレビの**全国放送の宣伝効果**というものの力が絶大であるということ、また、離島であっても、**嫁探しで成功して**、数年先には、児童数急増を見込めるといふ地域の学校があること、学校のみならず、地域の村おこし・町おこしの**斬新なアイデア**が、学校存続、ひいては、地域の活性化をもたらしているということなどです。つまり、アイデアで勝負ということかなぁ。そして、学校は、今ある自然や人情を大切にしつつ、小規模校でこそ実現しやすいきめ細やかな、行き届いた教育からは、いじめや、不登校や、問題行動、学級崩壊などが生まれにくいという事実を、そして、そんなゆとりの中から、心豊かで優しい子どもが育ちやすいという当たり前のことを、根気よく伝えていくしかない、と思うようになったんです。教育荒廃の吹きすさぶ砂漠のような都会で、もっとよい環境や安らぎを感じさせてくれる学校（オアシス）を求めている人々が、きっと、大勢待っていることを信じて・・・。

」